

令和6年度政務活動費収支報告について

令和6年11月27日

四国中央市議会議長 山川 和孝 様

議員氏名 横内 博之

四国中央市議会政務活動費の交付に関する条例第6条第1項の規定により、別紙のとおり6年度政務活動費収支報告書を提出します。

令和6年度政務活動費収支報告書

議員氏名

横内 博之

1 収入

政務活動費 160,000 円

2 支出

(単位：円)

科目	金額	備考
調査研究費	80,003 円	島根県雲南市・飯南市視察、愛媛県松山市視察費用
要請陳情活動費	0 円	
広報広聴活動費	0 円	
研修費	0 円	
資料購入費	0 円	

3 残額 79,997 円

備考 備考欄には、主たる支出の内訳を記載すること。

政務活動費返還申出書

令和6年11月27日

四国中央市長 篠原 実 様

議員氏名 横内 博之

令和6年度分として交付を受けた政務活動費について、残余金が生じたので、四国中央市議会政務活動費の交付に関する条例第8条第1項の規定により、次のとおり返還を申し上げます。

交付を受けた額	160,000 円
支出した額	80,003 円
返還する額	79,997 円

政務活動費出納簿（令和 6 年度）

No. 01

氏 名	横内 博之
-----	-------

[illegible]

No. _____

支 出 伝 票													
氏 名	横内 博之	印											
支出年月日	令和6年 5月 20日 ～ 5月 21日												
支出科目	調査研究費												
金 額	48,449円												
内 容	令和6年5月20日～5月21日 島根県雲南市、飯南町、雲南市への行政視察に係る経費 旅費はタクシー代173,000円÷5人の計算で、1人当たり34,600円。 宿泊費は1人1室11,950円。 手土産は（霧の森大福7箱）9,495円÷5人の計算で、1人当たり1,899円。												
経費算出表 <table border="1"> <tbody> <tr> <td>旅費</td> <td>34,600円</td> </tr> <tr> <td>視察料</td> <td>0円</td> </tr> <tr> <td>宿泊料</td> <td>11,950円</td> </tr> <tr> <td>手土産</td> <td>1,899円</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td>48,449円</td> </tr> </tbody> </table> ※複数の支出項目がある場合に記載				旅費	34,600円	視察料	0円	宿泊料	11,950円	手土産	1,899円	合 計	48,449円
旅費	34,600円												
視察料	0円												
宿泊料	11,950円												
手土産	1,899円												
合 計	48,449円												
備 考													

領収書等は裏面に貼付すること

領収証

一新会

様

No.

金額

¥173000-

但

タクシー代として

2024年5月21日 上記正に領収いたしました

内 訳

税抜金額 ¥157,273

消費税額(10%) ¥15,727

税抜金額

消費税額(%)

〒799-0121 愛媛県四国中央市土佐分町344

有限会社

代表取締役

TEL

0896

登録番号

登録番号 T9500

霧の森
The misty forest stands in white

領収書

Cash receipt

一新会

様

¥9495-

但し 手土産として

上記の金額正に領収致しました。

2024年5月19日

霧の森

〒799-0101

霧の森

〒790-0112

宮町馬立

tel 0896-72-3111

fax 0896-72-3112

3-1

tel 089-934-5567

fax 089-934-5567

no.

手土産 7個

雲南市 様 2個

辻野潤様 はいり飯南町の3名 3個

出雲市 様 2個

ご請求明細書
STATEMENT

ドーミーイン出雲
Dormy Inn Izumo
〒693-008 島根県出雲市駅南町1丁目3-3
1-3-3, Eki Minamimachi, Izumo-shi, Shimane-ken
TEL:0853-21-5489 FAX:0853-24-8017
登録番号:T1010001014427

お名前 一新会 様

お部屋番号 80020 ご人数 5
ご到着 2024/05/20 ご出発 2024/05/21

目付	ご明細	部屋番号	料金	お支払等	備考
05/20	◇ご宿泊代	from205	11,800		
	◇ご宿泊代	from207	11,800		
	◇ご宿泊代	from209	11,800		
	◇ご宿泊代	from212	11,800		
	◇ご宿泊代	from214	11,800		
	■入湯税	from205	150	*	
	■入湯税	from207	150	*	
	■入湯税	from209	150	*	
	■入湯税	from212	150	*	
	■入湯税	from214	150	*	

ご請求金額	59,750			
	10%対象	59,000	(消費税	5,363)
◇ この請求書を仕入税額控除の確証としてご利用いただけます	消費税課税対象外			750
■ 消費税課税対象外				
◎ その他				

発行番号 052014100606 P 1 13 14 A GA AL
24/05/20 21:37 0340994

ご署名 一新会

お名前 一新会 様 領収書 2024/05/20 052014100606

金額 ¥59,750-

但し 上記明細通り

上記金額正に領収致しました。

印紙税申告納
付につき神田
税務署承認済

株式会社 共立 〒101-8621 東京都千代田区外神田2丁目18番8号

(視察) ・ 要請陳情 ・ 広報広聴 ・ 研修) 実績報告書					
氏名	横内 博之			印	(Red Seal)
行先	島根県雲南市、飯南町、出雲市				
用件	雲南市・飯南町：移住者支援、新規就農 出雲市：不登校支援等の視察				
期間	令和 6年 5月 20日（月） から 令和 6年 5月 21日（火） まで				
対応者・講師等	安部千愛様（雲南市役所 政策企画部 うんなん暮らし推進課） 渡部楽平様（雲南市役所 政策企画部 うんなん暮らし推進課） 金築莉那様（雲南市役所 政策企画部 うんなん暮らし推進課・定住企画員） 白築健様（雲南市役所 政策企画部 うんなん暮らし推進課 定住推進員） 小林洋治様（雲南市役所 農林振興部 次長 兼 農業畜産課長） 辻野潤様（大阪府から飯南町に移住。生姜、トマト、豆類の営農資格者） 中野良介様（兵庫県から飯南市に移住。中野あおぞら農園 農園長） 田淵裕希様（和歌山県から飯南町に移住。中野あおぞら農園の営農実習生） 山崎創様（出雲市教育委員会 教育部次長 兼 児童生徒支援課長） 小林剛様（出雲市教育委員会 児童生徒支援課 課長補佐）				
報 告 内 容					
【別紙報告書のとおりに記載しております】					

行政調査報告書

1

一	新	会						氏	名	横	内	博	之	
今回の視察では、①移住・定住の取り組み、														
②新規就農の取り組み、③不登校対策の3つ														
のテーマについて視察を行った。														
①移住・定住の取り組みについては雲南市政														
策企画部うんなん暮らし推進課で、定住支														
援スタッフの配置と、空き家バンク制度の活														
用について学んだ。														
雲南市は、宝島社が発行する「田舎暮らし														
の本」に掲載の特集「住みたい田舎」ベスト														
ランキングにおいて、人口3万人以上5万人														
未満の市部門の「若者世代・単身者」で全国														
第1位に選ばれている。部門別では3年連続														
の全国第1位となっている。														
近年、人口動態が改善傾向にあり、令和4														
年・5年は20代、30代の転入が増加している。														
その結果の一因となっているのが、定住支														
援スタッフ（定住企画員2名と定住推進員1														
名）の配置である。														
定住支援スタッフは人材を呼込む企画と情														



行政調査報告書

2

報	発	信	、	移	住	・	定	住	の	相	談	、	定	住	後	の	生	活	サ
ポ	ー	ト	、	空	き	家	パ	ン	ク	の	運	営	等	を	総	合	的	に	行
っ	て	お	り	、	社	交	性	の	高	い	若	手	職	員	を	抜	擢	し	て
い	た	。																	
	定	住	支	援	ス	タ	ッ	フ	の	活	動	実	績	と	し	て	は	、	平
成	28	年	度	に	定	住	人	数	126	名	だ	っ	た	の	に	対	し	て	、
令	和	4	年	度	は	定	住	人	数	289	名	と	大	幅	に	伸	び	て	い
る	。	市	内	か	ら	市	内	の	移	動	176	名	を	含	ん	で	い	る	が、
日	々	積	極	的	な	定	住	支	援	に	力	を	入	れ	て	い	る	こ	と
が	伺	え	る	。															
	ま	た	、	空	き	家	パ	ン	ク	の	状	況	に	つ	い	て	は	、	令
和	6	年	4	月	1	日	現	在	、	空	き	家	登	録	数	521	件	、	売
買	済	約	176	件	、	賃	貸	済	約	144	件	、	紹	介	可	能	数	は	約
51	件	と	な	っ	て	い	る	。	毎	年	約	40	件	の	登	録	が	な	さ
れ	、	売	買	・	賃	貸	合	わ	せ	て	約	30	件	の	成	約	に	つ	な
が	っ	て	お	り	、	活	発	に	空	き	家	活	用	が	進	ん	で	い	る
現	状	が	分	か	っ	た	。	こ	れ	は	定	住	推	進	員	(	パ	ン	ク
専	従	)	を	配	置	し	て	い	る	こ	と	に	加	え	て	、	雲	南	不
動	産	協	力	会	(	現	在	13	社	)	と	の	連	携	が	功	を	奏	し
て	い	る	よ	う	で	あ	っ	た	。										



行政調査報告書

3

空	き	家	所	有	者	の	ニ	ー	ズ	と	し	て	は	、	相	続	後	の	
管	理	負	担	を	減	ら	し	た	い	と	い	う	ニ	ー	ズ	が	多	い	そ
う	で	、	固	定	資	産	税	の	納	税	通	知	に	P	R	チ	ラ	シ	を
入	れ	る	等	の	工	夫	も	見	ら	れ	た	。							
ま	た	、	U	タ	ー	ン	に	つ	な	げ	る	取	り	組	み	と	し	て	
高	校	生	に	対	し	て	、	教	育	委	員	会	と	連	携	し	、	3	つ
の	高	校	の	生	徒	に	対	し	て	、	情	報	誌	申	し	込	み	会	を
行	っ	て	い	る	取	り	組	み	も	興	味	深	か	っ	た	。	2	月	末
か	ら	3	月	に	先	輩	大	学	生	が	話	を	す	る	機	会	を	作	り
そ	の	際	に	市	が	発	行	す	る	企	業	情	報	等	が	掲	載	さ	れ
た	情	報	誌	を	配	布	し	、	今	後	発	送	す	る	住	所	の	登	録
を	し	て	も	ら	う	と	い	う	場	を	作	っ	て	い	る	。	令	和	5
年	度	で	も	380	人	が	登	録	し	て	お	り	、	進	学	等	で	市	外
へ	出	て	い	く	若	者	に	対	し	て	の	U	タ	ー	ン	対	策	に	つ
な	が	っ	て	い	る	と	感	じ	た	。									
そ	の	他	、	空	き	家	片	付	け	事	業	補	助	金	(	対	象	経	
費	の	2	分	の	1	以	内	、	上	限	5	万	円	)	や	、	子	育	て
世	帯	定	住	宅	地	購	入	補	助	金	(	対	象	経	費	の	10	分	の
1	以	内	、	上	限	100	万	円	)	、	民	間	賃	貸	住	宅	家	賃	助
事	業	補	助	金	(	対	象	経	費	の	2	分	の	1	以	内	、	上	限



行政調査報告書

4

2	万	円	/	月	)	な	ど	の	補	助	金	、	シ	ェ	ア	オ	フ	ィ	ス	、
定	住	情	報	サ	イ	ト	や	各	種	S	N	S	で	の	発	信	、	定	住	
フ	ェ	ア	イ	ベ	ン	ト	へ	の	参	加	、	移	住	体	験	プ	ロ	グ	ラ	
ム	の	オ	ー	ダ	ー	メ	イ	ド	実	施	、	U	I	タ	ー	ン	者	交	流	
会	の	実	施	、	結	婚	支	援	な	ど	、	多	く	の	施	策	を	展	開	
し	て	い	た	が	、	そ	の	施	策	の	本	気	度	に	加	え	て	、	定	
住	支	援	ス	タ	ッ	フ	が	一	生	懸	命	サ	ポ	ー	ト	し	て	く	れ	
て	い	る	こ	と	が	、	成	果	に	つ	な	が	っ	て	い	る	の	だ	と	
実	感	し	た	。																
	四	国	中	央	市	で	も	、	U	I	タ	ー	ン	者	に	対	す	る	施	
策	の	本	気	度	を	高	め	て	い	く	と	同	時	に	、	若	手	で	社	
交	性	の	あ	る	定	住	支	援	ス	タ	ッ	フ	の	配	置	を	行	う	こ	
と	が	急	務	で	あ	る	と	考	え	る	。									
	続	い	て	、	新	規	就	農	の	取	り	組	み	に	つ	い	て	は	、	
雲	南	市	農	林	振	興	部	農	業	畜	産	課	の	話	を	聞	い	た	。	
	雲	南	市	で	は	、	研	修	・	就	農	・	定	住	の	3	つ	を	就	
農	サ	ポ	ー	ト	事	業	と	し	て	展	開	し	、	農	業	研	修	生	を	
募	集	し	て	い	る	。														
	満	18	歳	か	ら	50	歳	ま	で	を	対	象	と	し	て	、	自	営	就	



5

行政調査報告書

6

働	い	て	い	る	方	々	の	声	も	聞	き	た	い	と	い	う	こ	と	で	、
雲	南	市	の	隣	に	あ	る	、	飯	南	町	に	お	伺	い	し	た	。		
	飯	南	町	も	新	規	就	農	に	つ	い	て	、	充	実	し	た	取	り	
組	み	を	さ	れ	て	お	り	、	今	回	は	大	阪	府	か	ら	移	住	し	
て	生	姜	等	の	営	農	資	格	者	で	あ	る	辻	野	さ	ん	、	兵	庫	
県	か	ら	移	住	し	て	中	野	あ	お	ぞ	ら	農	園	の	農	園	長	を	
さ	れ	て	い	る	中	野	さ	ん	、	和	歌	山	県	か	ら	移	住	し	て	
中	野	あ	お	ぞ	ら	農	園	で	営	農	実	習	生	を	し	て	い	る	田	
淵	さ	ん	に	現	地	を	見	せ	て	い	た	だ	き	、	話	を	聞	い	た	。
	50	代	の	辻	野	さ	ん	は	、	前	職	で	飯	南	町	に	来	る	機	
会	が	何	度	か	あ	り	、	知	人	の	勸	め	で	就	農	を	行	う	こ	
と	と	な	っ	た	。	今	で	は	中	野	さ	ん	、	田	淵	さ	ん	含	め	、
多	く	の	就	農	仲	間	の	リ	ー	ダ	ー	に	な	っ	て	い	る	様	子	
で	あ	っ	た	。																
	40	代	の	中	野	さ	ん	は	会	社	の	都	合	に	縛	ら	れ	る	都	
会	で	の	サ	ラ	リ	ー	マ	ン	生	活	を	続	け	る	こ	と	に	疑	問	
を	感	じ	て	い	る	頃	、	「	い	つ	か	は	田	舎	で	自	給	自	足	
の	生	活	を	し	た	い	」	と	言	っ	て	い	た	妻	・	晴	美	さ	ん	
の	言	葉	か	ら	移	住	候	補	地	選	び	を	行	っ	た	。	イ	ン	タ	
一	ネ	ッ	ト	で	探	し	て	目	に	留	ま	っ	た	の	が	飯	南	町	。	



行政調査報告書

7

空	き	家	を	活	用	し	た	定	住	促	進	住	宅	が	整	備	さ	れ	、
農	林	業	に	就	い	て	定	住	を	目	指	す	人	へ	の	研	修	・	支
援	な	ど	も	手	厚	か	っ	た	。	何	度	も	足	を	運	ぶ	う	ち	に
田	舎	ら	し	い	環	境	と	市	職	員	の	熱	意	が	後	押	し	と	な
り	、	夫	婦	で	I	タ	ー	ン	就	農	を	決	め	た	と	の	こ	と	。
30	代	の	田	淵	さ	ん	は	、	美	容	師	と	し	て	働	い	て	い	
た	が	、	ず	づ	と	農	業	に	興	味	を	持	っ	て	お	り	、	一	念
発	起	で	就	農	の	研	修	制	度	が	手	厚	い	飯	南	町	に	来	た
田	淵	さ	ん	の	和	歌	山	の	実	家	は	稲	作	の	農	家	だ	が	、
稲	作	で	は	な	い	作	物	を	や	り	た	い	と	い	う	想	い	で	た
ど	り	着	い	た	の	が	飯	南	町	だ	っ	た	。	来	年	か	ら	は	研
修	期	間	が	終	わ	り	、	パ	プ	リ	カ	生	産	者	と	し	て	活	動
し	て	い	く	予	定	で	あ	る	。										
こ	の	よ	う	に	、	地	理	的	に	有	利	と	は	い	え	な	い	飯	
南	町	で	あ	っ	て	も	、	研	修	制	度	や	定	住	支	援	を	充	実
さ	せ	、	イ	ン	タ	ー	ネ	ッ	ト	等	で	PR	す	る	こ	と	で	、	都
会	か	ら	就	農	希	望	者	が	来	て	い	る	と	い	う	こ	と	が	分
か	っ	た	。	四	国	中	央	市	で	も	同	様	の	施	策	を	行	う	こ
と	で	、	若	手	の	就	農	希	望	者	が	移	住	し	て	く	る	可	能
性	は	あ	る	と	感	じ	た	。											



8

行政調査報告書

9

な	が	る	と	い	う	効	果	は	も	ち	ろ	ん	の	こ	と	、	中	学	校
の	方	法	に	慣	れ	る	こ	と	で	、	中	一	ギ	ャ	ツ	プ	の	軽	減
や	様	々	な	先	生	と	関	わ	れ	る	こ	と	で	、	相	談	で	き	る
相	手	を	増	や	す	効	果	が	あ	る	と	の	こ	と	だ	っ	た	。	
3	つ	目	は	、	ほ	っ	と	ル	ー	ム	と	い	う	、	校	内	で	落	
ち	着	い	て	過	ご	す	こ	と	の	で	き	る	専	用	の	部	屋	を	用
意	し	て	い	る	こ	と	で	あ	る	。	小	学	校	は	12	校	、	中	学
校	は	全	15	校	に	設	置	し	て	い	る	そ	う	で	、	市	独	自	の
予	算	で	不	登	校	相	談	員	を	配	置	し	て	い	る	。	(	小	学
校	に	つ	い	て	は	半	分	県	負	担	)								
四	国	中	央	市	で	は	、	県	の	事	業	と	し	て	川	之	江	北	
中	学	校	で	サ	ポ	ー	ト	ル	ー	ム	が	導	入	さ	れ	て	い	る	が
県	の	動	き	を	待	つ	の	で	は	な	く	、	市	単	独	で	行	っ	て
い	る	こ	と	が	素	晴	ら	し	い	と	感	じ	た	。					
教	員	を	配	置	す	る	の	で	は	な	く	、	会	計	年	度	任	用	
職	員	を	配	置	す	る	こ	と	で	、	小	中	学	校	合	わ	せ	て	約
2500	万	円	の	予	算	で	運	営	を	行	え	て	い	る	。	こ	の	予	
算	で	、	学	校	内	に	安	心	で	き	る	居	場	所	が	で	き	る	の
で	、	四	国	中	央	市	で	も	前	向	き	に	導	入	を	検	討	す	る
の	が	よ	い	と	感	じ	た	。											



行政調查報告書

10

[illegible]

No. _____

支 出 伝 票													
氏 名	横内 博之	印											
支出年月日	令和6年 7月 18日 ~ 7月 19日												
支出科目	調査研究費												
金 額	31,554円												
内 容	令和6年7月18日～7月19日 松山市への行政視察に係る経費 旅費はタクシー代94,780円÷5人の計算で、1人当たり18,956円。 宿泊費は1人1室11,550円。 手土産は（いわくら太鼓2箱、ひうち焼2箱）5,240円÷5人の計算で、1人当たり1,048円。												
経費算出表 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tbody> <tr> <td style="width: 50%; text-align: center;">旅費</td> <td style="width: 50%; text-align: right;">18,956円</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">視察料</td> <td style="text-align: right;">0円</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">宿泊料</td> <td style="text-align: right;">11,550円</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">手土産</td> <td style="text-align: right;">1,048円</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">合 計</td> <td style="text-align: right;">31,554円</td> </tr> </tbody> </table> ※複数の支出項目がある場合に記載				旅費	18,956円	視察料	0円	宿泊料	11,550円	手土産	1,048円	合 計	31,554円
旅費	18,956円												
視察料	0円												
宿泊料	11,550円												
手土産	1,048円												
合 計	31,554円												
備 考													

領収書等は裏面に貼付すること

領収証

一新会

様

No.

金額

¥77,478.00

但

77,478.00

2024年7月19日 上記正に領収いたしました

内訳

税抜金額 ¥78,616

消費税額(10%) ¥7,861.6

税抜金額

消費税額(%)

〒799-0121 愛媛県四国中央市上分町344-1

有限会社

代表取締役 徳

TEL 0896-

登録番号 T950

登録番号

6A096923

お名前

一新会

領収書

様

2024/07/18 071803104310

金額

¥57,750-

但し

ご宿泊代として

上記金額正に領収致しました。

印紙税申告納
付につき神田
税務署承認済

24.7.18

株式会社 共立メンテナンス

〒101-8621 東京都千代田区外神田2丁目18番8号

領収証

様

¥5,240-

但し、食料品及びその他商品代金として

うち、外税 8%対象額 4,852円 外税額 388円

上記正に領収いたしました 売上№-TNo:9612

株式会社フジ フジ四国中央店

TEL : 0896 - 49 - 1011

※財布等に入れ保管頂く場合、印刷面を内側に折り返し保管してください。 株式会社フジ 登録番号

No. 0201-0921-9612
2024年07月18日
[担当:鈴木]

T9500001003505

手土産 4個 (いかり太鼓2個 ひらき焼2個)

愛媛県教育委員会事務局 指導部 高校教育課様 2個

株式会社 ISEKI M&D 様 2個

[illegible]

1

行政調査報告書

2

土	居	高	校	が	再	編	基	準	の	1	年	目	に	該	当	し	て	し	ま
っ	て	い	る	。															
こ	の	ま	ま	令	和	7	年	度	、	令	和	8	年	度	と	入	学	者	
80	人	以	下	が	続	く	と	、	募	集	停	止	と	な	る	危	機	の	真
っ	た	だ	中	に	あ	る	。												
し	か	し	、	市	町	や	地	域	か	ら	学	校	の	存	続	の	た	め	
に	必	要	と	思	わ	れ	る	支	援	が	得	ら	れ	る	県	立	高	校	等
を	、	1	市	町	に	つ	き	1	校	に	限	り	、	特	別	の	統	廃	合
基	準	(	入	学	者	が	30	人	以	下	の	状	況	が	3	年	続	き	、
そ	の	後	も	増	え	る	見	込	み	が	な	い	場	合	は	、	募	集	停
止	)	を	適	用	す	る	「	魅	力	化	推	進	校	」	に	認	定	で	き
る	。																		
単	純	に	考	え	れ	ば	、	地	域	の	方	た	ち	が	存	続	を	願	
う	、	土	居	高	校	を	魅	力	化	推	進	校	に	認	定	し	て	い	た
だ	け	る	よ	う	に	、	「	市	町	や	地	域	か	ら	学	校	の	存	続
の	た	め	に	必	要	と	思	わ	れ	る	支	援	」	を	行	い	、	認	定
に	向	け	て	動	い	て	い	く	の	が	よ	い	と	思	え	る	。		
し	か	し	、	私	達	市	議	会	議	員	は	も	う	少	し	未	来	を	
考	え	る	必	要	も	あ	る	と	考	え	て	い	る	。					
令	和	6	年	度	の	四	国	中	央	市	内	の	中	学	3	年	生	の	



行政調査報告書

3

生徒数は706人であるが、急速な少子化で、令和5年度の新生児は409人と聞いている。令和元年～令和3年の卒業生の進路は69%が市内の県立高校となっており、その比率は年々低くなっている。
15年後を考えたときには、中学校で市外進学するなどの要因で、中学3年生の生徒数は約400名、その60%が市内の県立高校に進学すると推測すると、約240名（6クラス）という数字が出てくる。
その頃を想定したときには、市内に3校を残しておくことが正しい決断なのかと言われると疑問が残る。
三島高校、川之江高校にしても、普通科中心で進学実績も下降気味である中、学校長権限で行うことができる、「コース」等の新設だけでは市内の生徒に選ばれる高校になるのが難しいと考える。愛媛県教育委員会の承認が必要な「科」の新設やキャリア教育の積極的導入等、産業界や中学生のニーズに沿った



行政調査報告書

4

学	校	づ	く	り	へ	の	改	革	が	必	要	だ	と	感	じ	た	。		
	一	案	と	し	て	、	大	胆	に	市	内	1	校	に	し	て	、	選	抜
以	上	に	進	学	に	特	化	し	た	特	進	ク	ラ	ス	や	就	職	に	特
化	し	た	工	業	科	を	配	置	し	た	り	、	校	則	の	大	幅	見	直
し	を	し	た	り	す	る	な	ど	し	て	、	一	気	に	魅	力	的	な	高
校	づ	く	り	着	手	す	る	と	い	う	手	も	あ	る	と	考	え	る	。
	一	方	、	今	回	の	愛	媛	県	県	立	学	校	振	興	計	画	の	中
で	、	松	山	南	高	校	砥	部	分	校	が	存	続	す	る	こ	と	に	な
っ	た	が	、	「	砥	部	分	校	存	続	の	会	」	等	か	ら	、	砥	部
分	校	存	続	案	が	提	出	さ	れ	た	こ	と	が	転	換	期	と	な	っ
た	そ	う	で	あ	る	。													
	こ	の	存	続	案	で	は	、	計	画	案	の	策	定	過	程	で	想	定
し	得	な	か	っ	た	砥	部	町	か	ら	の	支	援	や	民	間	企	業	と
の	連	携	な	ど	、	砥	部	分	校	の	存	続	に	向	け	た	具	体	的
方	策	が	明	確	に	示	さ	れ	、	町	と	企	業	か	ら	も	そ	の	存
続	案	へ	の	協	力	が	示	さ	れ	た	。								
	例	え	ば	、	砥	部	町	は	「	遠	距	離	で	通	学	で	き	な	い
生	徒	の	た	め	の	家	賃	補	助	」	「	全	国	か	ら	生	徒	を	募
集	す	る	た	め	の	活	動	費	補	助	」	で	支	援	を	、	存	続	の
会	な	ど	地	域	住	民	は	「	親	元	を	離	れ	て	暮	ら	す	生	徒



行政調査報告書

5

へ	の	生	活	見	守	り	」	で	支	援	を	、	広	告	デ	ザ	イ	ン	企
業	は	「	校	内	へ	の	サ	テ	ラ	イ	ト	オ	フ	ィ	ス	開	設	」	と
「	ゲ	ー	ム	ク	リ	エ	ー	シ	ョ	ン	コ	ー	ス	に	お	け	る	専	門
技	術	指	導	」	等	の	支	援	が	示	さ	れ	て	い	る	。			
そ	う	い	っ	た	「	実	現	可	能	で	、	子	ど	も	達	に	と	っ	
て	有	益	と	な	る	具	体	的	方	策	案	」	を	提	示	で	き	た	こ
と	が	、	存	続	に	つ	な	が	っ	た	と	の	こ	と	で	あ	る	。	
存	続	が	決	ま	っ	た	今	、	砥	部	町	は	全	国	か	ら	の	生	
徒	募	集	の	為	、	建	設	費	8	億	円	の	寮	の	建	設	を	計	画
し	、	さ	ら	に	魅	力	的	な	高	校	づ	く	り	に	邁	進	し	て	い
る	。																		
四	国	中	央	市	で	も	、	3	校	を	存	続	さ	せ	る	の	で	あ	
れ	ば	、	「	実	現	可	能	で	、	子	ど	も	達	に	と	っ	て	有	益
と	な	る	具	体	的	方	策	案	」	を	提	示	で	き	る	よ	う	に	準
備	を	し	な	け	れ	ば	な	ら	な	い	。	2	校	や	1	校	に	再	編
し	て	い	く	に	し	て	も	、	い	か	に	魅	力	的	な	高	校	づ	く
り	を	行	っ	て	い	く	か	は	考	え	て	い	か	な	け	れ	ば	な	ら
な	い	。																	
い	ず	れ	に	せ	よ	、	愛	媛	県	県	立	学	校	振	興	計	画	の	
後	期	計	画	に	着	手	し	始	め	る	令	和	8	年	度	に	は	地	域



行政調査報告書

6

協	議	会	等	が	行	わ	れ	、	地	域	の	声	を	聴	く	機	会	を	作	
る	そ	う	で	あ	る	。	そ	の	頃	に	は	、	首	長	の	決	断	が	重	
要	な	も	の	と	な	る	こ	と	は	間	違	い	な	い	。	次	の	市	長	
選	挙	は	そ	う	い	っ	た	意	味	で	も	大	変	重	要	な	機	会	に	
な	る	と	感	じ	た	。														
②	農	業	の	歴	史	と	未	来	に	つ	い	て	は	、	株	式	会	社		
ISEKIM	&	D	に	お	伺	い	し	、	プ	レ	ゼ	ン	テ	ー	シ	ョ	ン			
と	工	場	見	学	、	ギ	ャ	ラ	リ	ー	見	学	を	行	う	こ	と	が	で	
き	た	。																		
	プ	レ	ゼ	ン	テ	ー	シ	ョ	ン	で	は	、	1926	年	(	大	正	15		
年	)	8	月	、	「	井	関	農	具	商	会	」	が	創	設	さ	れ	、	そ	
の	第	一	号	と	し	て	、	全	自	動	粃	す	り	機	を	生	産	し	た	
こ	と	か	ら	始	ま	り	、	現	在	は	35	%	が	海	外	売	上	と	い	
う	比	率	ま	で	向	上	し	て	い	る	こ	と	に	つ	い	て	教	え	て	
い	た	だ	い	た	。															
	工	場	見	学	で	は	、	農	業	機	械	(	ト	ラ	ク	タ	、	コ	ン	
パ	イ	ン	、	田	植	機	)	の	エ	ン	ジ	ン	ブ	ロ	ッ	ク	(	本		
体	)	を	効	率	よ	く	生	産	す	る	た	め	、	横	型	マ	シ	ニ	ン	
グ	セ	ン	タ	ー	11	台	と	ロ	ボ	ッ	ト	4	台	を	連	結	さ	せ	た	、



行政調査報告書

7

ラインを構築しており、最新設備を生産性高く活用している様子を見ることができた。
また、トヨタのかんばん方式を採用しており、1本のラインで全く異なる機種が同時に組立てられる混合生産の組立ラインも見ごたえがあった。
かんばん方式とは、生産現場で連続する工程間の仕掛在庫を最少にするための仕組みで、トヨタ生産システムでジャスト・イン・タイムを実現するために開発された手法の1つ。
前工程はかんばん（生産指示標）を発注書として受け取り、製品を加工する。加工後、加工品はかんばんとともに後工程に渡されるという方式である。
はじめてかんばん方式のラインを見学したが、部品をひとまとめにして、無駄のない生産工程になっており、大変興味深かった。市役所でも生かせる可能性がないか、検討していきたい。
最後に、ギャラリー見学をさせていただいた。



行政調査報告書

8

そ	こ	で	は	、	子	ど	も	達	に	も	農	業	や	農	業	機	械	、	井
関	農	機	の	歴	史	が	伝	わ	る	工	夫	が	見	ら	れ	た	。		
	最	新	製	品	に	つ	い	て	も	展	示	さ	れ	、	映	像	で	紹	介
さ	れ	て	い	た	が	、	ほ	と	ん	ど	の	部	分	を	自	動	化	、	省
力	化	さ	れ	、	さ	ら	に	タ	ブ	レ	ッ	ト	を	使	っ	た	作	業	管
理	サ	ポ	ー	ト	や	機	械	管	理	サ	ポ	ー	ト	を	行	え	る	よ	う
に	進	化	し	て	い	る	こ	と	が	理	解	で	き	た	。				
	そ	し	て	、	ISEKI	ド	リ	ー	ム	パ	イ	ロ	ッ	ト	シ	リ	ー	ズ	
の	製	品	で	は	、	GNSS	(	全	球	測	位	衛	星	シ	ス	テ	ム	)	を
活	用	し	た	自	動	操	舵	技	術	に	よ	り	、	オ	ペ	レ	ー	タ	が
監	視	・	遠	隔	操	作	す	る	こ	と	で	、	安	全	性	を	確	保	し
な	が	ら	ト	ラ	ク	タ	に	よ	る	無	人	作	業	が	可	能	に	な	っ
て	い	た	。																
	未	来	の	技	術	だ	と	思	っ	て	い	た	こ	と	が	、	実	現	で
き	て	い	る	こ	と	に	驚	き	を	隠	せ	な	か	っ	た	。	こ	う	い
っ	た	最	新	技	術	が	高	齢	化	や	少	人	数	化	、	大	規	模	化
の	中	で	の	農	業	を	支	え	て	い	く	こ	と	が	イ	メ	ー	ジ	で
き	、	大	変	勉	強	に	な	っ	た	。									
	こ	こ	ま	で	、	2	つ	の	内	容	に	沿	っ	て	視	察	の	報	告



行政調查報告書

9

[illegible]